

“JR東労組中央本部 vs 3地本（東京・八王子・水戸）”の泥沼化については、繰り返し「民主化闘争情報」で報じてきたところである。6月13日開催予定のJR東労組第38回定期大会を目前に、JR東労組八王子地本は機関紙「JR東労組はちおうじ」で、同中央本部による「指令第43号（3地本執行委員長に対する制裁申請と執行権および組合員権の一部停止等）」に対する反論を掲載した。

地方本部が中央本部に対し宣戦布告？！

定期大会を目前に内向きの対立ばかりを深める組織に未来はない！

～ “手口、呼ばわりされた中央本部は、次にどんな手を打つのか？” ～

「JR東労組はちおうじ」第188号（2019.6.1）では、“理解・納得できない指令43号について中央本部に説明を求めます！”とのタイトルで、2-3面下段ぶち抜きで地本執行委員長が制裁対象となっている八王子地本の考え方が記されている。

冒頭、指令第43号による制裁に至った理由（中央本部側の主張）などを引用した上で、「私たちは今回出された指令43号について納得することができません」と声高に主張している。その理由について、これまでと変わらず、第35回臨時大会の開催は規約違反で無効であるといった主張をはじめ、「JR東労組運動の根幹に関わる方針・財産・権利に関する事を一切の議論無く強行決定する手口を許す事はできません」と中央本部の“指令”を“手口、呼ばわりし、ののしっている。

民主的に話し合うこともできず、組合員を置き去りにしてディスリ合う様からは、何がやりたいのかよく分からないが、労働組合としての体を成していないことだけは確かだろう。そして、「中央本部からは『指令に従うか、従わないか』だけが投げられますが、そもそも私たちは従う、従わない以前に『なぜ指令が出されなければならないのか』について理解も納得もしていません」として、指令第43号が出されたことについて、「説明と議論を求めています」などと、事の善し悪しは別にして、本部指令に徹底抗戦の構えとも言える姿勢を示し、終盤では「指令を乱発し、疑問を封殺し、…（略）…官僚体質とは断固として闘ってまいります」と中央本部に対して宣戦布告している。

組織の信頼回復・強化とは程遠い書き…、言い訳ばかりを行う組織に組合員は守れない

5月13日付の「緑の風」号外で、“JR全東労組の存亡をかけ、未来を切り拓くために、12地本が総団結し、組合員と共に組織の信頼回復と強化・拡大を実現しよう”と大会スローガンを掲げているようだが、その実現には程遠いどころか、“総団結”にも及ばない状況ではないだろうか。さらに、組織内の統率も取れていない中、会社側の打ち出す様々な施策に対しても「18春闘以降、私たちの組織的力や、施策などに対する立ち向かい方が弱まって…」と中央本部自らの低能力を棚に上げ、言い訳がましく弱音を吐いているようだ。このような労働組合に組合員が付いていけるはずもない。

1週間後に迫った定期大会でどのような幕引きを図るのか見物だが、いつまでも続く組合員不在の内部権力闘争に見切りをつけ、安心して働ける環境づくり、そのための運動を続けるJR連合・JREユニオンに結集しよう。

今こそ！真に民主的な労働運動を展開するJR連合・JREユニオン結集しよう！